

群馬ふるさとづくり賞 受賞団体からの喜びの声

群馬ふるさとづくり賞は、活力ある地域づくりに取り組んでいる優れた団体を顕彰するものです。7回目となった今回は、応募4団体の中から「宮田ほたるの里を守る会」が群馬ふるさとづくり賞に輝きました。表彰式は6月29日(火)の平成22年度の総会の席上で執り行われました。ここでは、受賞団体の喜びの声と活動内容をご紹介します。



「ほたるが育む豊かな自然と地域の和」 みやだ 宮田ほたるの里を守る会 事務局 星野 信好



まさか「群馬ふるさとづくり賞」を受賞できるとは、夢にも思わず本当に驚いています。関係者の皆様に心からお礼申し上げますと共に、素晴らしい賞を頂き光栄の一言です。宮田ほたるを守る会々員一同、この受賞の感激も新たにしっかりと活動を推進して参る所存です。

例えば14年前(平成8年)、生涯学習役員11名と農業用水路周辺農家の皆さんと共に、わずか数匹残された現在の生息地で、ホタルを絶やさないと始めた保護活動が、お陰さまで今日の受賞につながる礎となったのかなと思います。

始めた頃は手探りで、月夜野町や田口町、長野県の辰野町など先進地の視察や研修を重ね、先方の方々のホタルへの熱い思いに圧倒され、また、目にしたことのない何百というホタルの乱舞に感動した、その事が今日までの活動を支える糧となりました。

それから数年後、地域の小中学生と一緒に活動を進める事で、学校での講演や総合学習参観などを通じ、環境問題への取り組みを支援。今では、子供たちの環境への関心も高まってきている事を実感しています。年を重ねるごとに会員も増え、地元企業や商店、宿泊施設等も参加するようになり、文字通りホタルを中心に地域

の交流もはじまりました。

会が発足して10年の節目に「10年のあゆみ」を編纂し、その翌年から会報「ホタルの里だより」を刊行、ホタルの自然発生地をまとめた赤城町ホタルマップ作成や、ほたる写真集へと続き、昨年公式ホームページも開設し、ソフト面でも充実して来ました。

私たちのホタル保護活動は、自然の中で自生するホタルを自然のまま保護し、育ててゆくのが基本理念です。そして、餌となるカワニナを育て、ホタルの幼虫を見守り、水路や周辺を管理して環境を整える事が活動主体です。春から秋にかけての水路周辺の除草、水路の砂上げなど辛い作業が多いですが、なぜか現代人の心を癒すホタルの光を待つ人々のためにも会員、心を1つにしてこれからも地道な活動を続けて行きたいと思えます。

今回の受賞を契機に、賞に恥じる事のないよう更に精進し、地域の活性化の一端を担えるよう努めると共に、未来にしっかりと残された自然を目標に、次の世代に引き継ぎたいと思えます。受賞は大きな励みとなります。本当にありがとうございました。

みやだ 宮田ほたるの里を守る会 概要

渋川市(旧赤城村)では昭和40年代から土地改良(基盤整備)が始まり、河川や農業用水路などのコンクリート化や農薬散布により水生生物が激減。そのため、ホタル保護を目的とした水生生物の保護活動を開始。保護地や周辺の水田、畑ではなるべく農薬を使用しないように協力を仰いでいる。低農薬の米は「ほたる舞(ホタル米)」と命名し、自家用米・緑谷米として生産。ホタル保護活動と同様に水生生物を守り、地域の活性化につながる活動を進めている。

宮田ほたるの里を守る会の活動内容

活動の目的

宮田のホタルは「なくしてはいけない、いなくなるといけない」地域の財産。現在、赤城町の自然環境は地域に本来あった水辺の植物や水生生物、里山の植物が外来種に覆われ、歴史的な風景さえも変えられている。この赤城町の自然・歴史・文化を守り、私たち大人から子どもたちに伝えていくことを目的としている。

活動の経緯

平成8年、宮田地区生涯学習役員と周辺農家の皆さんにより、地域づくり・人づくりの一環としてホタル保護活動をスタート。現在では500~600匹のホタルが確認できる。また、ホタルの生態や水辺の環境づくりについて会員一人ひとりがテーマを決めて、資料作成や学習会などを行っている。平成11年には小・中学生が入会し、地元赤城町の環境やホタルの棲める環境づくりについての講演依頼や取材が増えた。平成14年度より、年1回子どもたちによる水生生物体験学習会、カワニナ捕獲・放流会を実施している。

活動内容

- ・散策道のバリアフリー化、植木・植物の手入れ、農道・市道の下草刈り、ゴミ・空き缶拾い
- ・ホタルの生態系調査・体験学習会の実施…4月上旬より上陸調査や飛翔数を確認。4月中旬~7月末頃まで毎夜交代で鑑賞者の案内や説明、パトロールを実施。調査は10月下旬まで行う。
- ・体験を主体とした、子どもたちの環境学習の実施…学校での講演会や総合学習での赤城町の自然やホタルの棲める環境などの取り組みで、新市渋川の注目を集める。

地域の活性化

子ども会員が加わったことで、世代・職業を超えて地域が一体となり、地元自治会内各組織との連携も深まった。また、個人商店・宿泊施設・温泉・直売所などが協賛会員に加わり、県内外からホタル鑑賞者数が拡大した。その売り上げの一部をホタル基金として活動費補助に充てて

いる。平成21年2月にホームページを開設した。
(<http://www.miyada-hotaru.com/>)

都市住民の参加状況

赤城町大島地区ホタル生息地周辺にはホタル会員でもある温泉・宿泊施設・直売所などもあり、首都圏から鑑賞者が多く訪れる。市内のALT、農業研修生など外国人との交流も多い。

自然環境の再生・保全効果を把握するための調査

農業用水路を子どもたちの遊び場、自然体験の場と考え、ホタルの棲める環境や農業用水路について理解し、水の楽しさを学んでいる。その結果、水環境保全への関心度が高まった。

環境教育の取組状況

地元小・中学校では「地域を守ろう!」をテーマに、赤城町の自然や環境を守る総合学習を行っている。当会ではホタルの活動を通して生き物・植物・水を守ることに理解と関心を高めるために体験学習会を開催している。



今後の計画

発足14年目に入り高齢化が進むため、平成18年度より家族全員がホタル会員となってくれるよう呼びかけている。また、農業用水路・土積・石積の改修工事を市に要望している。さらに、ホタル生息地が散策道に近く捕獲されてしまうので、散策道の変更を赤城町支所に要望している。ホタルを保護し多くの人に見てもらおうとともに、環境をこれ以上悪化させてはいけないという意識を広げ、私たちの宝物を子どもたちと一緒に残していく活動を永く続けて行きたい。また、ゲンジボタル・ヘイケボタルを環境を守るバロメーターとして、子どもたちと一緒に後世に残していきたい。

※外国語指導助手 (Assistant Language Teacher)